

	<h1 style="text-align: center;">進取の気概</h1> <p style="text-align: center;">(校長室だより)</p>	<p style="text-align: center;">有田市立箕島中学校</p> <p style="text-align: center;">自主 友愛 剛健</p>	<p style="text-align: center;">R4・12・9</p> <hr/> <p style="text-align: center;">No.46①</p>
---	--	--	--

毎年12月4日～10日までの1週間を「人権週間」と言います。そして、最終日の12月10日は「人権デー」です。1948(昭和23)年12月10日に「世界人権宣言」が国連総会で採択されたことに由来します。12月4日～10日の間、人権について考えるイベントなどがいろいろなところで開催されます。

昨年度、2・3年生のみなさんには、人権(Human Rights)の権利がなぜ複数形の“Rights”となっているのかについて考えてもらいました。当たり前ですが、自分の人生の主人公は自分です。それでは、自分の周りにはいる人はどうでしょうか。言うまでもなく、周りにはいる人もそれぞれが自分の人生を生きる主人公なのです。「自分も大事」「相手も大事」。だから、人権の権利は複数形となっている……。このことで、みなさんに紹介したい新聞の社説があります。一部になりますが、読み込んでください。



「人権」は「人としての権利」というわけだが、その基本的なものは「生存」「自由」「幸せ」の三つだろう。

英語で「ヒューマンライツ」という。この「ライツ」は「正しい」とか「権利」という言葉の複数形(rights)である。なぜ複数形なのかと言うと、いろんな説があるが、ぼくは「自分の権利と相手の権利を同時に考えなければならないから」という説に納得している。

たとえば、「私には生きる権利がある。誰も私の生きる権利を奪うことは許されない」と同時に、「私以外の人にも生きる権利がある。だから私は人の生きる権利を奪ってはいけない」

それから、「私は自由に生きる権利がある。だから私は誰の奴隷にもならない」と同時に、

「私以外の人にも自由に生きる権利がある。私の自由が人の自由を奪ってはいけない」

そして、「私には幸せに生きる権利がある」と同時に、

「その権利が誰かの幸せを邪魔してはいけない」。これが人として「正しいこと」というわけである。

……………(略)……………

人権という言葉が複数形で表現されているのは、「自分も大事」「相手も大事」、まさにダブルスクリーンだからである。

……………(略)……………

(日本講演新聞より)

自分と相手の2つの画面を心に写して、行動したいものです。

	<h1 style="text-align: center;">進取の気概</h1> <p style="text-align: center;">(校長室だより)</p>	<p style="text-align: center;">有田市立箕島中学校</p> <p style="text-align: center;">自主 友愛 剛健</p>	<p style="text-align: center;">R4・12・9</p> <p style="text-align: center;">No.46②</p>
---	--	--	--



世界人権宣言の第1条で、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利において平等である」と規定されています。SDGsの前文の中には、「誰一人取り残さないことを誓う」と記載されていることから明らかなように、SDGsの核にあるのが「人権尊重」の考えです。SDGsの達成には、一人ひとりの努力と行いが大切です。

〈保護者のみなさまへ〉

(昨年度の校長室だよりと同じです)

学校が人権教育で大切にしていることは、子どもたちの人権感覚（人権が擁護されていることを感知してこれを望ましいと感じ、反対に人権が侵害されている状態を感知してそれを許せないとする感覚）を磨き、人権が大切にされていることを肯定し、逆に侵害されていることの問題性・不合理性を認識して、人権侵害を解決せずにはいられないとする意識を高めることにあります。

人権というところか堅苦しいイメージがありますが、子どもたちが幸せに生きていく上で、これほど重要な学習はありません。人権感覚はいかに時代が変わっても変わらない人間関係の根底をなすものだと考えています。

人権感覚のベースとなるのは、自分のことを価値ある存在として捉える自尊感情というもので、これを育む心の栄養素が「肯定的な言葉」です。自尊感情が低いと自分のことを大切に思えない、自分のことを大切に思えないと他人のことも大切には思えなくなります。本校では「子どもたちの自尊感情を高めること」を重点の一つにして取組を進めています。

ご家庭におかれましても、今後とも子どもへの肯定的な言葉かけや子どもと人権について話し合ったり一緒に考えたりする機会を大切にさせていただきますようお願いいたします。

「人権感覚」って何ですか

それはケガをして 苦しんでいる人があれば
そのまますどおりしないで「大丈夫ですか」と
助け励ます心のこと

「人権感覚」って何ですか

それは悲しみに うち沈んでいる人があれば
見て見ぬふりをしないで「一緒に考えましょう」と
共に語らう心のこと

「人権感覚」って何ですか

それは偏見と差別に 思い悩んでいる人があれば
わが事のように感じて「そんな事は許せない」と
自らすすんで行動する心のこと

「人権感覚」って何ですか

それはすどおりしない心 見て見ぬふりをしない心
他者の苦悩をわが苦悩として
人間尊重のために行動する心のこと

～「光は風のなかに」(桑原 律)～